

新たな6次産業の創造へ 果敢に挑戦!

—3月25日 小谷城スマートインターチェンジオープン—



小谷城スマートインターチェンジの概要

路線名	北陸自動車道
連結位置	湖北町山脇・小谷丁野町地先
接続道路	福井方面：一般県道郷野湖北線 米原方面：一般県道丁野虎姫長浜線
形式	本線直結型フルランプ形式
利用可能車種	ETC車載器を搭載した全車種
計画交通量	2,000台/1日
全体事業費	約33億円

平成29年3月25日、小谷城スマートインターチェンジが開通しました。

市内にインターチェンジが設置されるのは、昭和55年に長浜と木之本に設置されて以来、実に37年ぶり。十数年におよぶ要望活動などが実った市民待望の開通です。

開通により、利便性の向上はもちろん、観光・産業振興、救急・医療体制の強化、災害時の新たな避難経路の確保、地域間の交流促進・連携強化などの効果が期待されます。

計画地周辺の活性化策では、大型商業施設や大型物流拠点の誘致による地域振興などを幅広く検討しましたが、周辺の商圏人口が小さいこと、周辺が優良な農地であることなどから、「農業」を軸に地域の農林水産物を有効活用し新しい産業やサービスを生み出す拠点づくりに取り組むこととしました。

この具現化に向け、「小谷城スマートインターチェンジ周辺6次産業化拠点構想話会」を設置し、議論を重ねています。

長浜市がめざす 新6次産業化とは

懇話会では、拠点整備の理念を「先人が築き上げた湖北の「農」を、次の世代・産業へと繋ぐ」としてまとめ、現在皆さんの健康な生活実現などのための拠点整備について議論しています。

湖北地域の基幹産業である農業を活性化させることは大きな課題であり、産業を守り育てるためには、農林漁業者の所得を確保することが必要です。その仕組みの一つとして提唱されているのが「6次産業化」です。

連携し、市の強みであるバイオ技術・産業を最大限に活かす「**まち全体で取り組む新6次産業化**」です。

小谷城SIC周辺6次産業化拠点構想の方向性

誰もが理想とする「健康的なライフスタイル」のもととなるのは「食」。

それを生み出すのは「農」です。

小谷城SICの利便性を生かしその周辺に、市内産の農林水産物を50%以上扱う6次産業化拠点施設を整備し、

市内産物の生産、活用を促進します。安全・安心なバイオ技術や湖北の美しい景観、歴史の重みを感じる風土、環境に優しい市民意識を生かしたアグリビジネス産業が集積する「健康的なライフスタイルを支え、リードする地域・産業拠点」をめざします。

〔6次産業化〕
農林漁業の従事者（1次産業）が、生産物の付加価値を生み出すために、農畜産・水産物の製造だけでなく、食品加工（2次産業）や、流通・販売（3次産業）などの産業へ挑戦・参入し、農山漁村の経済を豊かにしようという考え方を指します。

拠点施設に必要な機能

- ① 作る（生産拠点機能）
バイオ技術も活用しつつ、食生活や暮らしの面で健康増進に寄与する農林水産物の生産増強を図る。
- ② 高める（価値創造機能）
市内で生産された農林水産物を集積して付加価値を高め、廃棄を減らす。
- ③ 商う（物流拠点機能）
小谷城SICの利便性を活かして、市産の商品とそれを求める顧客を呼び込み、商流を創り出す。
- ④ 交わる（人材交流機能）
小谷城SICの来訪者を市内各所に誘導し、観光・交流を促す。



⑤ 広める（情報発信機能）
健康志向で先進的な長浜スタイルを発信して、来訪者を増やす。

⑥ 育む（人材育成機能）
市内外からアグリビジネスの担い手を呼び込んで、育成する。

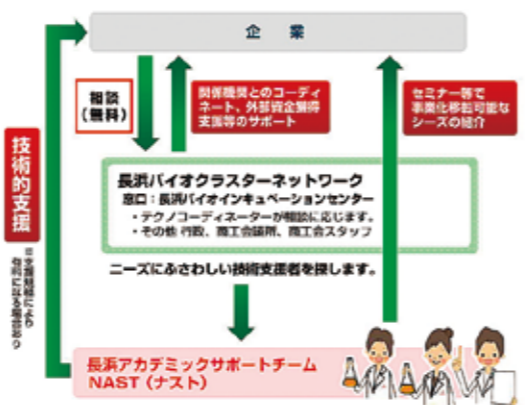


安全・安心なバイオ技術を核に 産学官金が連携して推進します

バイオのまち 長浜

6次産業化を実現するために最初に必要となる農林水産物の生産。いま、それを支えるために必要不可欠な技術が「バイオ技術」です。バイオ技術の農業分野への展開は早くから進んでおり、土作りから品種改良・開発などにおいて、すでに欠かせない技術となっています。

は、平成24年から、長浜アカデミックサポートチーム（NAST）を組織し、市内でバイオ関連事業に取り組み企業の技術的支援等を実施しています。長浜には、バイオ技術を使って長浜らしさを生み出す取り組みを支援し、育む土壌があります。



長浜バイオインキュベーションセンター ☎65-8808

6次産業化拠点整備に向けて

小谷城SIC周辺約52ha（図1）は、昨年12月の都市計画区域の再編により、特定用途制限が設けられ地域産業誘導地区として、周辺との調和に配慮しながら、地域の雇用を支える地域産業拠点としての土地利用が可能となっています。

実際に整備するためには、地元、地権者の理解はもちろん、計画に賛同する企業の誘致、国の計画認定などが必要となるため、具体的な拠点整備には時間を要します。

小谷城SIC活用の核となる農業だけでなく、周辺の史跡や文化、施設等を活かし、観光や商業など市内全域に大きな効果を生み出すための拠点整備をめざします。

バイオ関連企業を育む取組
市や大学、経済団体等で行く「長浜バイオクラスターネットワーク」で

可能性の広がりを期待

長浜バイオ大学学長 蔡晃植さん
（長浜アカデミックサポートチーム）



小谷城SICの開通は、長浜ブランドを外に発信できるチャンスです。

そのためには、小谷城SIC周辺だけでなく、長浜全体、もっと広域に目を向け、大きな視点でまちづくりを進めるべきでしょう。6次産業拠点整備となると供給することばかりに目がいきますが、広報戦略を含めて需要を喚起しなければ長くは続きません。

私は、栄養価の高い尾上菜など長浜の伝統野菜に着目しています。調べてみると尾上菜は栽培が難しく、現在では数件の農家で栽培されているだけのようです。本学では、地域貢献のため尾上菜について最先端バイオで研究し、その情報を地域に提供することで、尾上菜をブランド化したいと考えています。「地域が繋いできた伝統野菜がバイオの力で復活、発展した。」となれば、このこと自体も注目されるポイントと成り得ます。

これを足がかりに小谷城SICが生かせれば、長浜の可能性は無限の広がりを見せることとなるでしょう。



【図1】

3つのゾーンによる産業集積

6次産業化拠点が発揮する「作る」「高める」「商う」「交わる」「広める」「育む」の6つの機能。その集約による相乗効果を最大限に高めるため、【生産・教育】【農業体験】【交流・商業】の3つのゾーンを展開し、多様な企業の進出と地域の成長・発展を促します。

6次産業化拠点の3つのゾーン



健康的なライフスタイルを支え、リードする地域・産業拠点



農家レストランと農産物・加工品の販売拠点

※土壌から拘ったオーガニック野菜や地元食材を使った食物販は、「日々の健康発信地」



長浜の食文化を伝える料理教室

※伝統料理・野菜を使用した世代間コミュニケーションは、心の健康も育む



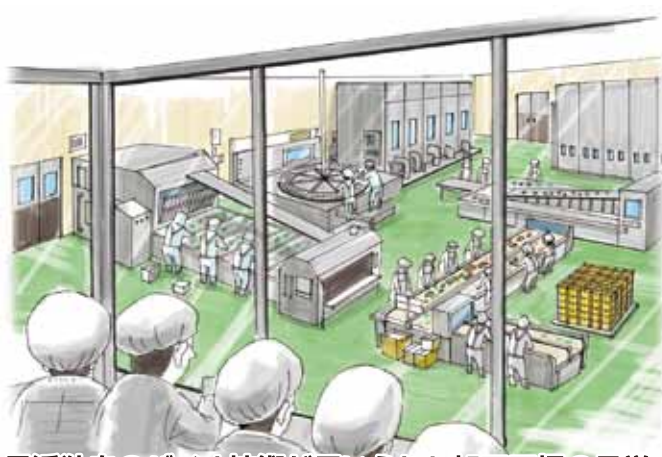
親子収穫体験・生産農家との交流

※農業体験は「心身の健康・リフレッシュ」になり、来場者の絆も深める



野菜・花き等生産施設(植物工場)

※安心・安全な野菜で「内から美しく・健康に」
※GLOBALGAP、HACCP 認証工場



長浜独自のバイオ技術が用いられた加工工場の見学

※知育による心と頭の「健康」
※「バイオ」を生かした最新の技術を体感

お問い合わせ

長浜市産業観光部小谷城SIC周辺新産業拠点整備室

電話：65-6520